令和８年１月５日（月）

“ふるさとちば”のための政策推進を

岩井泰憲やすのり県議会リポート

発　行／自由民主党千葉県議会議員会　〒260-0855　千葉市中央区市場町2番13号　電話 043（227）7411

成田空港へのアクセス増強

都心直結線実現がカギ

国への働きかけ強化を

「印旛を変える、千葉県が変わる」をスローガンに政治活動に取り組む岩井泰憲県議（印西市・印旛郡栄町選出、４期）は12月定例県議会で登壇し、成田空港へのアクセスや印西市駅前へのデータセンター建設問題、体験型博物館房総のむらなどについて、県執行部に質問しました。印西市におけるデータセンター建設計画は住民に大きな波紋を投げかけていますが、岩井県議は市中心部への建設は危険として、県の認識を質しました。岩井県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

岩井議員　成田空港へのアクセス手段は、コロナ禍前の２０１８年の時点で、鉄道利用者が約46％だったものが、直近の調査で全体の56％、東京都を出発地に限ると66％にまで高まっており、鉄道輸送力の増強が求められている。今後、成田空港の鉄道アクセスの強化に向けて、県としてどのように対応していくのか。

総合企画部長　第３滑走路の供用開始等による空港利用者の増加に伴い、鉄道の利用者についても増加が見込まれることから、現在、空港会社や鉄道事業者、自治体などで構成される国の検討会において、鉄道アクセスの強化に向けた議論が行われているところです。

この検討会では、輸送力の増強に向けて、列車の増発や車両の増結、単線区間の複線化などの必要性が指摘されており、今後、具体的な整備内容等も含め、更に検討を進めていくこととされています。

岩井議員　成田空港の利用者数が１・８倍に増える見通しである中、鉄道アクセスの改善は喫緊の課題と言える。

そこでうかがうが、成田空港が、グローバルハブ空港としての役割を一層発揮するためにも、空港の鉄道アクセスの強化が国策として早期に実現されるよう、検討会への参画などを通じ、しっかりと働きかけてまいります。

要望　**岩井議員**　成田空港の鉄道アクセス強化の課題として、都心側の過密ダイヤが残っており、対策の最大の目玉は都心直結線構想であると思われる。

成田国際空港の機能強化に伴う鉄道需要の大幅増加を機会に、国に対し、都心直結線の実現に向けた働きかけをより強化するよう要望する。

12月定例県議会一般質問

知事ら県執行部に質問する岩井泰憲県議

体験型博物館房総のむら

多様なイベント計画

房総のむらの町並み

岩井議員　体験型博物館房総のむらについてうかがう。知事部局に移管した後の取組状況とその成果はどうか。

知事　房総のむらについては、文化の更なる振興により地域の活性化等につなげるため知事部局に移管したところであり、博物館法の改正も踏まえ、多様な主体との連携・協力による文化振興・文化観光などを通じた地域活力の向上を目指し、庁内関係部局・市町村や企業などと連携をした取組を積極的に行っています。

具体的には、「農業関連団体との連携による落花生豆まきイベント」「野田市や松戸市、企業等と連携した醤油醸造の企画展」「航空科学博物館等、周辺博物館との共同開催によるスタンプラリー」などを実施しており、今月には若者の仲間づくりを進める「ちば部」の事業と連携をし、体験型謎解きイベントを開催する予定です。

これらの幅広い分野と連携した新たな取組により地域活性化に広く貢献しているものと考えており、引き続き千葉の魅力を発信する参加体験型の博物館として、より多くの皆様に利用していただけるよう努めてまいります。

●印西市・栄町と県政のために

岩井やすのり県議事務所
〒270-1515 千葉県印旛郡栄町安食台2-26-23 大山ビル202
TEL 0476-36-7799 FAX 0476-36-7802

印西駅前データセンター計画
環境問題や危険性はらむ

岩井議員　印西市内にて駅前立地での建設計画が大きな波紋を広げているデータセンターに関わる課題についてうかがう。

本件がそうであるように、データセンター事業者は外資であることが多く、また、一般消費者を対象としたビジネスでないこともあり、彼らは世論や地域の声にはほとんど頓着せず、現に、印西市の建設問題でも事業者側は住民とまともに向き合わず、話し合いのテーブルに就こうともしない。

24時間365日稼働し、絶え間なく回転音が鳴り響く騒音・振動の問題、施設内のサーバーを冷却させるために生じる排熱問題など、どれも周辺環境に悪影響をもたらす深刻な課題で、大阪府茨木市のデータセンターにおける非常用発電機用の重油流出事故、韓国のデータセンターにおける大規模火災などトラブルが相次いでおり、改めて、市中心部でのデータセンター建設の危険性が露呈された。

そこでうかがうが、県内では印西市や流山市において、データセンターの建設計画に反対の声が上がるケースが増えているが、県の認識はどうか。

都市整備局長　まちづくりは、地域の理解と協力を得ながら進めていくことが重要であり、その建設に当たっては、地域と十分に合意形成を図ったうえで、進めていくことが大切と考えています。

データセンターに限らず、大規模施設の建設は周辺環境に影響を与えるおそれがあることから、地域のまちづくりを担う地元市町村は、建設事業者に対し、住民の不安や疑問に丁寧に対応するよう説明会の開催などを促しているところです。

県としては、建設事業者と地域の合意形成が円滑に進むよう、地元市町村に対し、合意形成に向けた取組の事例などについて、情報提供や助言を行っており、引き続き地元市町村への支援に努めてまいります。

県の施策を要望する岩井県議

県警の公安・外事部門
緻密かつ適正な捜査徹底
警察本部長

岩井議員　警視庁公安部外事一課が外国為替および外国貿易法に違反するとして捜査した事案に係る国家賠償請求訴訟については、本年５月28日、東京高等裁判所において、当該捜査における逮捕や取り調べ等が違法であったなどとする内容の判決が言い渡され、同判決が確定している。

本県は警視庁公安部の捜査によるものだが、捜査の問題点は、本県警察においても他山の石とするべき内容を含むものであると考えられる。そこでうかがうが、県警では、公安・外事部門における適正な捜査を徹底するため、どのような取組を推進していくのか。

警察本部長　本事案については、警視庁公安部における特異な例と捉えるのではなく、どのような事件捜査においても発生し得るものと重く受け止めております。

令和７年８月、警察庁から各都道府県警察に対し、公安・外事部門における緻密かつ適正な捜査の徹底を図るための再発防止に係る取組について指示がなされました。これを踏まえ、県警では、公安・外事部門の重要事件における本部長捜査会議の実施、緻密かつ適正な捜査について総括的な指導等を行う指導官の配置、現場捜査員からの相談・意見等を受け付けるためのホットラインの開設、指導・教養の充実等の取組を推進しているところです。

県警での捜査において同種の事案を発生させることのないよう、緻密かつ適正な捜査の徹底に努めてまいります。

住み良いまちへインフラ整備

残る区間の工事へ
埋蔵文化財の調査
千葉竜ケ崎線バイパス

岩井議員　県道千葉竜ケ崎線バイパス事業の現状と見通しはどうか。

県土整備部長　県道千葉竜ケ崎線では、印西市草深から大森までの３・４キロメートル区間について、交通混雑の緩和と歩行者の安全を確保するため、バイパスを整備しており、これまでに１・９キロメートル区間を供用しております。

残る１・５キロメートル区間については、用地取得率が約９割となっており、取得した用地において、昨年度から埋蔵文化財調査を実施しています。

さらに、課題となっていた共有地については、本年８月に地元区と印西市の協力により解決したことから、早期に埋蔵文化財調査を実施できるよう調整し、事業を進めてまいります。

安食交差点改良
歩道整備を実施
国道356号

岩井議員　国道356号安食交差点改良の進捗状況はどうか。

県土整備部長　安食交差点については、右折レーンがなく、歩道も未整備であることから、安全で円滑な通行を確保するため、交差点改良を進めています。

これまでに、約６割を超える用地を取得しており、用地が確保できた箇所から、順次、歩道整備を実施しているところです。

若草大橋延伸線へ
協議会で意見交換

岩井議員　（仮称）若草大橋延伸線の取組状況はどうか。

県土整備部長　北総地域と茨城県南部を結ぶ若草大橋の整備効果をさらに高めるため、同橋南側に新たな道路を延伸することは、重要であると考えています。

県では、道路計画の具体化に向けて、県と印西市、栄町で構成する（仮称）若草大橋延伸線協議会を設置しており、本年８月に下部組織であるワーキンググループの第３回会議を開催し、交通課題の現状把握や整備効果などについて意見交換を行ったところです。

排水能力増強へ
護岸工事を実施
長門川

岩井議員　長門川における河川整備の進捗状況はどうか。

県土整備部長　長門川では、印旛沼から利根川への排水能力を増強するため、ふじみ橋から酒直水門までの約４キロメートル区間において、段階的に護岸と堤防の整備を進めています。

現在は、ふじみ橋の上流左岸約０・３キロメートルと旧長門川合流点の下流左岸約０・２キロメートルにおいて、護岸工事を実施しているところです。

今後とも、関係者の御理解と御協力を得ながら、速やかに整備が完了するように事業を進めてまいります。

カワウ、サギ対策
営巣樹木を伐採
北総花の丘公園

岩井議員　県立北総花の丘公園におけるカワウ、サギ対策について、どのように取り組んでいるのか。

県土整備部長　公園内にある戸神川防災調節池周辺の樹木には、多くのカワウやサギがそれぞれの繁殖期に営巣し、近隣住民から糞被害改善の要望があることから、県では、専門家の意見を聞いた上で、対策を進めています。

現時点で営巣の抑制に最も効果的と考えられる樹木伐採を住宅地近隣で進めた結果、効果が確認されたところであり、今年度はカワウの営巣前の６月から９月にかけて、約130本の樹木伐採を実施したところです。

引き続き、カワウやサギの生息状況や周辺環境への影響を注視しながら対策を進めてまいります。